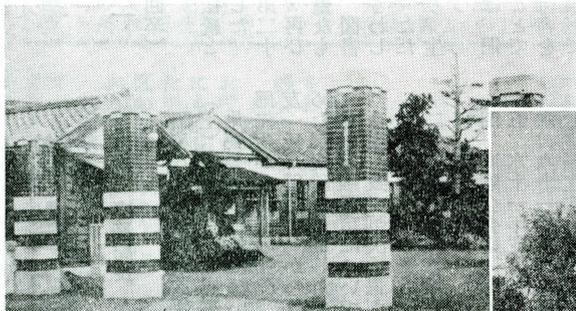


# 同窓会だより

編集発行／岐阜県立本巣高等学校同窓会本部事務局  
〒501-04 岐阜県本巣郡糸貫町仏生寺・TEL (0583) 24-1201

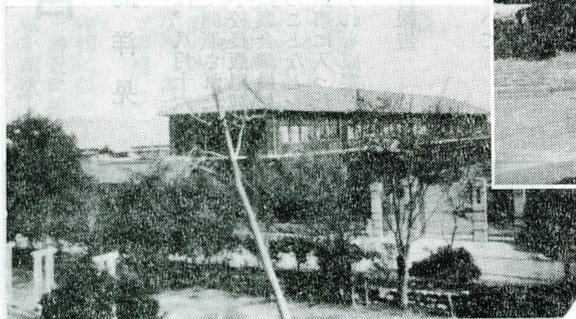
卒業生総数：  
19,731人  
旧中：2,571人  
高女：2,592人  
高校：14,568人



↑ 旧中時代のキャンパス



↑ 現在の母校のキャンパス



↑ 高女時代のキャンパス

輝かしい昭和六十二年の新春を寿ぎ御祝詞を申し上げますと共に、皆様にはますます御健勝にて各方面に御活躍御精進のことと存じ心からお慶び申し上げます。本校の卒業生もだんだんと増加致し二万名に達し、折は何かと御協力を頂戴致しましてありがとうございます。名簿は順調に発行出来まして部数も従来より多く三千四百九十一冊発行致しました。メンテナンス契約も結んでおりますので精々御利用戴ければ幸いです。

同窓会の過ぎ去りし一年の歩みを申し上げますと、八月十六日に真正町の政田の昇平楼において昭和六十一年度の本部総会を開催致しました。出席者百有余名で昭和三十一年卒の方も多数御出席になりました。出席者百有余名の思い出話に花が咲き、時のすぐるのも忘れて盛大に行われました。支部総会の状況は五月十七日に関西支部の総会が七十有余名出席のもとに京都の国際ホテルにて盛大に開催されました。回を重ねる度に出席者の数は増加しております。岐阜支部の総会は六月十四日なごやかなムードの裡に開催されました。揖斐郡の教職員の方も毎年新春に総会を開催され、同じ職域におられる方々が友情の絆を強められております。昨今の総会には女性の方が多く出席されるようになりましたことは喜ばしいことと存じます。名古屋、東京も今年には是非開催されますことを期待致し、会員の皆様にお会い出来ましてお話を承る機会を得ることを楽しみに致しております。

今年度の本部総会は岐阜市において開催致します。総会の期日は昨年の総会において八月の第二土曜日に開催することに変更になりました。総会の場所・時間等は理事会におきまして決定次第、各年度の理事者が年に一回一堂に会し青春時代の思い出話を語りあう機会をもち、且つ友情の絆を強める唯一の機会でございます。八月八日岐阜市において開催されます総会には、世代の相違を乗り越えて多数の会員の皆様のお出席を期待致しますと共に、同窓会員の益々の御健勝と御多幸をお祈り致しまして年頭の御挨拶と致します。

(六十二・一・三記)



同窓会長

井 深 透

ご挨拶

# 母校の近況報告

教頭 飯沼 東一  
(旧中二十回卒)

昭和六十一年四月一日、六十六年の伝統と名声をもつ、懐かしい母校に赴任しました。思えば昭和二十年三月、旧制本巢中第二十二回卒業生として本校を巣立った者が、再び校門をくぐるようになったことは感無量なものがあります。木造の校舎、柔剣道場、図書館及び講堂は今はなく、新制高校にふさわしい近代的な学校に変貌しております。ただ校庭や生垣の松は、そのままの姿で残り、生徒であった時代の思い出を誘います。

母校に来て、まず第一に思ったことは、旧中の伝統は受け継がれているかということでした。幸い今年も、国公立大合格者が百名を越え、難関有名私大にも多数合格し、県下有数の進学校としての面目を保っております。

部活動においては、女子ハンドボールがインターハイ出場、女子ソフトボールが中日本大会出場、それに続く女子バレーボール、陸上(個人)、柔道(個人)が好成績をあげ、東海大会に出場しました。来年の見通しはとなると、樂觀は許されませんが、スポーツで名声を上げた本巢高校の名に恥じないよう各部に頑張ってもらいたいと思っております。体育館も近々建つ予定になっております。

また、従来の学校祭は、本年から銀杏祭と銘うち、文化祭、体育大会ともに、生徒の自治的活動の場として、成功裡に終了したことは、「文武両道」を旨とする学校の方針が具現化できたものと喜んでおります。

家政科の伝統になっております家庭科技術検定三冠王(和裁・洋裁・食物とも一級)は、今年も三年生全員が獲得し、その成果が全国で紹介されました。以上、簡単に母校の近況をお伝えします。

# 総会報告

事務局長 中島 洋晃

昭和六十一年度の本部総会は、八月十六日(土)、真正町政田、昇平楼にて開催された。井深会長の挨拶に続いて、学校長飯尾誠太郎先生から学校の近況、岐阜県議会議員杉山友一氏(25年卒)からは県政のことなどを含めた御祝辞を頂戴し、議事に入った。左記協議事項について、いずれも原案どおり全会一致で可決承認された。

- 一、六十年度事業並びに会務報告
- 二、六十年度決算報告
- 三、監査報告
- 四、同窓会会則一部改正について
- 五、六十年度事業計画案
- 六、六十一年度予算案
- 七、創立六十五周年記念会員名簿発行に関する決算報告等
- 八、創立五十周年記念奨学金給付報告

特に協議事項の四については、次のように改正された。

現行 附則 第十一条 総会は原則として毎年八月第三土曜に行う。

改正 附則 第十一条 総会は原則として毎年八月第二土曜に行う。

改正の理由として、本部総会の企画・運営は、本部役員その他、校内理事(本校卒業生で母校に在職する職員)によって行われているが、特に八月第三土曜を中心に開催される岐阜県高等学校総合体育大会と総会開催日が重なり、総会の運営に支障をきたすことが多々あること、その他の事情によって改正提案となった。

総会終了後は、恩師杉山義雄、河村武彦、豊田義道、河合敏緒、篠田一男、松尾克美、後藤正紀各氏の懐かしい先生方と交え、懐旧の談笑の中に時の流れも忘れる楽しい懇親会がもたれた。



楽しい懇親会の一コマ

なお、昭和六十二年度の本部総会は、岐阜支部総会と兼ねて、八月八日(土)に岐阜市にて開催される予定であるが、より多くの会員諸氏との再会を祈念するところである。

# 昭和三十一年卒 年次総会報告

後藤 正紀

昨年の熱気溢れる大野町での本部総会で、当番幹事の三十年卒業生市田先輩から昭和六十一年度本部総会への引き継ぎを受けました。

三十一年の卒業生は、普通科でも、商業科にしても、よく同窓会を開いて交流を図ってきました。六十年十月には、東海財務局長となって帰って来た水谷君を呼び出して有志で同窓会。六十一年一月には、商業科で同窓会。六十一年三月には又、水谷君が大蔵省大

臣官房審議官に栄転するのを機に恩師高橋蔵先生、河村先生を囲んで同窓会を開きました。総勢六十一名が集まって水谷君の栄転を喜びました。この席で、引き継いだ本部総会を盛大に盛り上げるために協力を頼みました。よく中心になって世話をしてくれる高崎道治、清水俊照、藤道隆、恩田秀子、青山幸男、加藤昌子、高木実の諸君が、今回もまた、同級生に出席するように呼びかけてくれました。一、三月と普通科、商業科で同窓会を開いたこととお盆で忙しいこと等で集まりを心配していましたが、総会当日は、遠く船橋、東京、神戸、大阪、宝塚、京都から馳せ参じてくれて三十数名が総会を盛り上げてくれました。

総会終了後、三十一年卒業生は別室に移り、恩師の河村武彦、豊田義道、篠田一男の各先生を迎えて、普通科、商業科が一同に会し卒業以来初めての合同の学年同窓会を持ちました。

この機会でないとは皆に会えないと船橋から来た竹田君、刈谷からは趣味で絵を描き日展にも入選した所君、大学教授になつている京都からきた河村君、何時も関西支部同窓会に出席して下さる福富、高橋俊、高橋秀、木村、畑中の諸君、東京から親元に帰つて来たのに呼び出されて仲間に加わった福田君等が地元に住む同級生と共に時間の過ぎるのも忘れてお互いの近況やら三十年前の高校時代の思い出に花を咲かせました。先生方に負けない程頭が白くなった者たちも、暫く話し合った間に三十年という歳月はなかったような錯覚におちいりました。

先生方は生徒一人一人の名前がなかなか思い浮かばなくて、やっと思いついてはお互いに安心して、握手するなど和気あいあい、三十年の月日の流れを懐かしんで遅くまで語り明かして下さることを願ひ、又、普通科と商業科を一緒にした同窓会を開くことを約束して別れました。

最後に、篠田先生からおとり会書展の招待状を頂いたことを付け加えます。

# 随想 本巣旧制中学 在校時代の思い出

旧中第十五回卒  
八代 義 隆

私達が旧制中学へ入学した昭和九年から卒業までの五年間は全く戦時一色の時代で、ワシントン海軍条約破棄、満洲国に帝政実施(九年)、天皇機関説発表(十年)、二・二六事件(十一年)、蘆溝橋事件(十二年)、日華事変激化、国家総動員法成立(十三年)、ノモンハン事件、第二次世界大戦開始(十四年)等があり、学校においては海軍兵学校の七つボタン白服短剣姿凛々しい豊田稷先輩、陸軍では将校服に身を固めた雄々しい姿の稲葉正平先輩が母校を訪問され、我等に続けとばかりに叱咤激励されたものである。また、一方では応召された岩崎先生が中支戦線で戦死した部下の遺骨率領で内地の連隊へ来られた帰りに立ち寄り、鉄かぶとで泥水をすすり濁をいやしつゝ激戦に参加した苦しい体験を話され、内地で皆が思っているような生やさしい戦いではないと話された印象は今でも残っている。このような時代背景のために軍事教練も日々厳しさを増していったが、岐阜歩兵第六十八連隊からの配属将校、三田村先生は温厚な内にも一面厳しさはあったが、生徒からも慕われ人徳のあった先生で、現在でも同窓生仲間ではその消息を知りたがっている程である。

戦時色の影響か、忘れ得ぬ思い出の一つに滑空部の創設があった。各務原にあった航空隊からグライダー一機の払い下げを受け、それを見本に鹿島先生を中心に文字どおり手づくりで二機を作り上げ、それぞれ本巢一号、本巢二号と命名、学校西側の糸貫河原に放課後全校生徒一丸となってモッコとスコップで手につくりながら滑空

場及び格納庫を完成し、空に舞い上ったグライダーを見上げた時は思わず万歳と拍手のあと嬉し涙が頬をつたい感激したものであった。その訓練の成果は昭和十三年九月二十五日開催された長野県霧ヶ峰の中部日本学生グライダー競技会で優勝、ラジオの実況放送に興奮した思い出は一服の清涼剤でもあったように記憶している。このような戦時一色に包まれた時代であったが、私達同窓生には軍人志望は少なかった。それが卒業してから二年後には大東亜戦争の苛酷な運命に遭遇し、十五回卒を中心に前後のクラスは最も多く犠牲者が出た。私自身も南支那、スマトラ、ラバウル方面と転戦し九死に一生を得、六十五歳を過ぎたいわゆる老人と言われる年令まで生き長らえていることは、散華された方々には申し訳なく思うと同時に日々感謝の気持ちでいっぱいである。この思いは生き残った同窓生全てに気持でもある。

## 支部だより

### 京浜支部

支部長 川村 福二

#### 賀正

同窓会報を通じ久し振りに同窓諸兄と久闊を叙し、益々御健康であられんことを念ずる機会を与えられ、誠に感謝に堪えません。老生も京浜地区の責任者としてたえず何かお役に立ちたいと祈念しておりますが、何分にも地区の広さと年代の相違、環境の差、また男女共学の以前と以後の連絡方法等、各地区の同窓会のように参りませんので困惑しております。前回開催致しましたようにある年代に限ってお集り頂き、互いに共通の話題を身近に感ずるような輪を別々に催し、その輪を漸次上

下に広げては如何かと存じております。幸い今年早々、長谷川、神谷、山本氏等の諸氏と打ち合せの会合を致すこととなっておりますので、良き方法あらば期待しております。

「支部だより」として内容のないもので申し訳ありませんがお許しを願います。時節柄、諸兄の御自愛を切にお祈り致します。

### 関西支部

支部長 山田千秋

昭和六十一年度の関西支部総会は、五月七日(土)午後二時から京都国際ホテルにおいて、本部から井深会長・飯尾校長・中島先生の三氏をお迎えして盛大に開催されました。出席会員は(旧中)14名、(高女)20名、(高校)32名の、計66名でありました。特に、今回は六十五周年記念名簿の発刊を機に関西在住者の洗い直しを行いました。名簿よりピックアップした会員五八五名に対し総会案内を発送した結果は、前記の通り多数の出席を得ました。尚、総会は来賓二氏より祝辞や母校の現況報告等を受けたのち、「今後の支部運営のあり方」を主要議題に活発な意見交換を行いました。拝聴した貴重な意見は今後の支部運営に大いに反映させる所存です。

### 岐阜支部

支部長 佐倉式三

として昭和五十一年に会員名簿を作り、毎年少しずつ異動者を書き替えて来ましたが、そろそろ作り直す時期かと考えております。総会は、六十年まで毎年一回開いて来ましたが、今年度は支部長がご病気になるられ、その後任が決まらぬまま残念ながら開くことができませんでした。幹事、会員一同、心を合わせて支部の再建に努力し、有意義な会として今後も発展させて行かなければと思っております。皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。上けると共に、母校並びに同窓会のご発展をお祈り致します。

### 名古屋支部

事務局 棚橋 範夫

当支部は、愛知県在住及び勤務の方を対象

昭和六十一年度当支部総会は、六月十四日(土)岐阜会館で本部より井深会長、飯尾校長外四名の先生のご出席をいただき、中学校・36名、女学校・10名、高等学校・27名、計73名の出席で、とりわけ本年は高等学校の若い会員の出席が多々、盛会となりました。高橋幹事(中22)の司会で、井深会長、飯尾校長からそれぞれ挨拶があり、その後支部長挨拶、会計報告・大野副支部長(女13)、監査報告・長柄幹事(中13)、会務報告・八代幹事(中15)、閉会の辞・箕浦副支部長(高6)で議事を終了、続いて母校生徒の逞ましい活動の映写を懐旧の思いで鑑賞しました。高橋幹事(中26)の開宴の辞で懇親会に入ると、会場は皆が待っていたかのように和やかな熱気に包まれ、懐旧談はもとより、カラオケ、詩吟、若い会員のコーラス等々で、実に同窓会ならではの楽しい一時でしたが、最後に井深会長の万歳三唱で閉会しました。支部会員の皆さん、当支部発展のため次回総会にも是非お誘い合わせご出席下さい。

### 同窓会本部役員名一覽

(昭和60年8月17日改選)

顧問	安藤 清 (中1回)	糸貫町春近 (0583)	副	山田君子 (女13回)	糸貫町屋井 (0583)
顧問	石川絹子 (女18回)	岐阜市早田 (0583)	副	一四二九一 (0583)	北方町北方 (0583)
顧問	東町八三二 (0582)	岐阜市早田 (0583)	副	三六八 (0583)	北方町加茂 (0583)
顧問	井深 透 (中1回)	大野町稲富 (0583)	副	北川辰己 (中22回)	岐阜市上尻 (0583)
名譽会長	飯尾誠太郎 (学校長)	糸貫町見三 (0583)	副	笠原艶子 (女10回)	北方町北方 (0583)
副会長	延九八四 (0583)	〇四〇一 (0583)	事務部長	森 義雄 (中9回)	真南町一八 (0583)
副会長	翠 正明 (中13回)	真正町上真 (0583)	副	条八四九一 (0583)	〇二〇三七 (0583)
副会長	八代義隆 (中15回)	岐阜市又丸 (0583)	副	大西昇八 (中11回)	真正町政田 (0583)
副会長	九一七 (0582)	〇二五八 (0583)	副	林 秀一 (中2回)	〇一六五 (0583)
副会長	土屋淑子 (女4回)	北方町戸羽 (0583)	副	中村敬二 (中14回)	真正町温井 (0583)
副会長	高木つた子 (女18回)	北方町戸羽 (0583)	副	梅田 茂 (中22回)	北方町俵町 (0583)
副会長	羽町 (0583)	〇一〇一 (0583)	副	鷺見 茂 (中5回)	岐阜市又丸 (0583)
副会長	一〇二七 (0585)	〇一三五 (0583)	副	西 鶴子 (女3回)	北方町高屋 (0583)
副会長	砂町八八二 (0583)	〇三九八 (0583)	副	一四二二 (0583)	〇二〇八三 (0583)
副会長	菅原智子 (高13回)	〇一五六 (0583)	副		
副会長	三七九二 (0583)		副		

### 教職員人事異動

教頭	井口日出男 (中濃西高校)
教諭	今井利之 (東濃高)
教諭	岩田 孝 (池田高)
教諭	村瀬辰美 (岐山高)
教諭	松野光暢 (加納高)
教諭	大脇尚爾 (大垣商高)
教諭	細江守男 (益田高)
教諭	望月俊和 (不破高)
教諭	内木浩美 (羽島高)
教諭	高桑裕子 (退職)
教諭	真野裕子 (九月三十日付退職)
教諭	戸田淳子 (岐阜豊学校)
教諭	堀 真奈美 (退職)
教諭	村橋将一 (岐阜北高)

### 事務

総務部長	寺町百助 (中11回)	糸貫町屋井 (0583)
副	山田君子 (女13回)	〇四〇八二 (0583)
企画部長	高橋 巖 (中5回)	〇三四八八 (0583)
副	三六〇 (0583)	〇八一九 (0583)
副	内藤準一 (高2回)	〇二〇三九 (0583)
副	三六八 (0583)	〇一三九九 (0583)
副	毛日吉一八六一 (0582)	〇三〇五三 (0583)
副	笠原艶子 (女10回)	〇二〇六五 (0583)
副	一四九七一 (0583)	〇〇〇六五 (0583)
副	条八四九一 (0583)	〇二〇三七 (0583)
副	大西昇八 (中11回)	〇一六五 (0583)
副	林 秀一 (中2回)	〇一六五 (0583)
副	中村敬二 (中14回)	〇二〇三七 (0583)
副	梅田 茂 (中22回)	〇二〇三七 (0583)
副	鷺見 茂 (中5回)	〇二〇三七 (0583)
副	西 鶴子 (女3回)	〇二〇三七 (0583)
副	一四二二 (0583)	〇二〇三七 (0583)

### 事務

教頭	飯沼東一 (揖斐高教頭)
教諭	村木正子 (岐阜高)
教諭	北折信吾 (岐阜高)
教諭	服部岩夫 (岐阜高)
教諭	杉山勝美 (岐阜高)
教諭	神谷段孝 (岐阜高)
教諭	高橋清生 (大垣商高)
教諭	佐々木香魚子 (新任)
教諭	大野素昭 (岩村高)
教諭	下野正代 (大垣商高)
教諭	高橋裕見子 (揖斐高)
教諭	服部裕見子 (多治見工高)
教諭	栗本道夫 (岐阜藍川高事務長)
教諭	堀 紀子 (県衛生研究所)
教諭	堀 真奈美 (五月より)

### アナウンスメント

本年度は、会員の中、次の方々が逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

**訃報**

○松井 千治 (中24回) 5・8死亡

○若原 正巳 (中11回) 5・16

○森 慶一 (中1回) 7・44

○青木 保一 (中11回) 9・23

○山田 修次 (中1回) 10・20

○江崎 圭 (高普3回) 11・5

○川村三子雄 (中3回) 11・24

○小木曾翁 (恩師) 62・1・22

### 慶事

今年度の秋の叙勲で、本校関係者の中で、次の二氏がその荣誉に輝きました。ここに報告して、そのご功勞とご健康とを心から祝福申し上げます。

☆豊田 稔 (旧中十二回卒)

紫綬褒章受章  
昭和四十六年『長良川』で第六十四回直木賞受賞、他に『伊吹山』、『日本交響楽』、『人間交響楽』等の著書多数

☆国枝武直 (旧中二回卒)

勲五等瑞宝章受章  
本巣郡本巣町で医院開業、本巣郡医師会長、保健衛生功勞

### 同窓生著作紹介

☆吉岡勲氏 二著書発刊

○『恩師の道を仰いで』  
教職の傍ら郷土史に長らく携わってきた筆者が、敬愛する恩師・先輩について折々に書き記した思い出を年代順にまとめたものであり、明治から現在に至る県下郷土史の歩みともなっている。

徹底した現地調査・丹念な資料収集・慎重な時代考証などに寝食を忘れて努力した阿倍栄之助・小川栄一・林魁一・負竹喜登そして筆者などの苦勞が実ったものである。恩師を語る筆者の暖かい言葉に、また学究の徒としての筆者の謙虚さ・誠実さがよく窺われる。

(郷土出版社刊。定価一、八〇〇円・A5版)

○『道遙けく一郷土文学徒のあゆみ』  
この著書の副題とされているが、郷土文学の五十有余年に亘る郷土史にかかわる諸論文、県下全域にまたがる民俗の収集、教育についての示唆に富んだ提言など多くが取られている。既に世に問われている数多くの著書と相補う形をとっている。中でも感銘を深くしたのは、高木貞治とその師鈴木大麓であった。そこには現在の研究の在り方への鋭い先見性がみられる。是非読者諸兄にご一読を勧めたい。

(大衆書房刊。定価二、八〇〇円・A5版)

### 事務局から

▲昭和62年度同窓会は、八月八日(第二土曜日)岐阜市で開催の予定です。会員の皆様、特に卒業三十年目(昭和三十三年三月卒)の同窓生諸君のご出席を期待しています。

▲本年度も多数の会員の方々の訃報に接しました。会員の皆様のご健康をお祈りします。